

平成 27 年 10 月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時	平成 27 年 10 月 29 日(木) 午後 1 時 30 分		
場 所	市庁本館 3 階 議会第一委員会室		
教育委員職氏名	教育委員長	大 庭	文 武
	教育委員長職務代行者	武 輪	節 子
	教育委員	築 瀬	眞知雄
	教育委員	油 川	育 子
	教育長	伊 藤	博 章
事務局員職氏名	教育部長	佐 藤	浩 志
	教育部次長兼教育総務課長	野 田	祐 子
	図書館長	藤 田	俊 雄
	学校教育課長	小笠原	徹
	教育指導課長	木 村	一 夫
	社会教育課長	田 中	勉
	是川縄文館副館長	清 川	定 吉
	総合教育センター所長	原	寿
	博物館副館長	古 里	淳
	教育総務課参事	尾 崎	雅 祥
	学校教育課参事	茨 島	隆
	東地区給食センター所長	中 里	親 弘
	西地区給食センター所長	清 川	彦 一

開 会

(大庭教育委員長)

定刻となりましたので、平成 27 年 10 月教育委員会定例会を開会します。

10 月 1 日より委員長を務めることになりました大庭でございます。よろしくお願いいたします。

また、同じく 10 月 1 日より油川育子さんが新たに教育委員に任命され、本日が最初の定例会となりますので、油川委員さんから一言ご挨拶をいただきたいと思っております。それではお願いします。

(油川教育委員 あいさつ)

本日の議事録署名は、築瀬委員さんを指定します。

それでは教育長から、主な会議・行事等について、説明をお願いします。

主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

議案第 68 号 八戸市社会教育委員の委嘱について

(田中社会教育課長 資料に基づき説明)

(大庭教育委員長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。

(武輪教育委員長職務代行者)

任期が 11 月 1 日からということは、油川委員は 10 月 1 日から 10 月 30 日までは教育委員と社会教育委員を兼任するという認識でよろしいでしょうか。

(田中社会教育課長)

辞任の届けをいただいたのはその前ですので、この期間は空白ということになります。

(大庭教育委員長)

それでは議案第 68 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

ご異議がありませんので、議案第 68 号を原案のとおり決定します。

議案第 69 号 八戸市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

(小笠原学校教育課長 資料に基づき説明)

(大庭教育委員長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。それでは議案第 69 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

ご異議がありませんので、議案第 69 号を原案のとおり決定します。

議案第 70 号 八戸市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

(小笠原学校教育課長 資料に基づき説明)

(大庭教育委員長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。それでは議案第 70 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

ご異議がありませんので、議案第 70 号を原案のとおり決定します。

議案第 71 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について

(野田次長兼教育総務課長 資料に基づき説明)

(大庭教育委員長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。

(武輪教育委員長職務代行者)

まず、こちらは法律で決められているとはいえ、この報告書の作成にあたりご尽力いただきましたことを感謝申し上げます。

そしてお隣に油川先生もいらっしゃいますが、今回もまた学識経験者のお三方より貴重なご意見をいただいておりますので、この部分をまた来年度に生かされるといいと思っております。特に新しい事業について高い評価を得て、またこの事業に対して進んでいくということは、大変素晴らしいことだと感じております。その反面、こちらの総評の中にもありますけれども、ビルド、ビルドの連続でというところの文章をお借りすると、このスクラップがほとんど見受けられないとあります。私自身はスクラップという言葉を使いたくないのですけれども、新しいことでたくさんの事業を進めていくだけではなく、検討できるもの、また再構築するものを簡略化したり、割愛したりというところの部分も含めて、いろいろと検討していかなければならないと考えております。このことは現場の先生方からも声は上がっておりますので、ビルドアンドスクラップという言葉を使いたくはないのですが、検討していったら、より良い形で進めていただきたいと思いますと思っております。

(大庭教育委員長)

はい、ありがとうございます。この報告書の作成にあたっては、我々教育委員の意見も反映させていただいております。ここまでまとめていただいて、ありがとうございます。

いま武輪委員からもお話がありましたが、私はやはり2ページ、3ページの学識経験者からの総評、その中でやはり共通して3人の方からいただいているのは、わかりやすい、理解しやすい。あるいは具体的に抽出されているということで、好意的に高い評価をいただいた。ただ、それぞれお三方とも、例えば油川さんであれば2番目、3番目に指摘してあるような提言。それから天内さんもやはり新たに生じる課題への対応を含め総合的に取り組むなどの提言もございます。

それから前田さんにおかれましても、新しい事業については今後期待するというと同時に、マンネリ化しないようにという提言もございます。そのような提言の部分もきちんと含めて、また今後に生かしていければと考えております。

(大庭教育委員長)

それでは議案第71号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

ご異議がありませんので、議案第71号を原案のとおり決定いたします。

なお議案の説明にもありましたが、この報告書は市議会において12月市議会定例会開会日に報告するとともに、同日付けて公表する予定です。皆様には12月市議会開会までの間、この報告書の取り扱いにはご注意くださるようお願いいたします。また報道関係者におかれましても、この報告書の取り扱いにはご配慮くださるようよろしくお願いいたします。

報 告 「平成27年度第2四半期の業務報告について」

(大庭教育委員長)

はじめに、「平成27年度第2四半期の業務報告について」、事前に資料が配付されておりますので、委員の皆さんから質問がありましたら、お願いします。

(築瀬教育委員)

業務報告についてですけれども、10ページにあります社会教育課、社会教育グループの2番の家庭教育充実事業の(1)子育て・親育ち講座についてです。これもこれまで3、4回私が一貫して取り上げて、この場でお話させていただいています。なぜかという、大事だと思っているからです。このような事業は現代社会においてさらに重要になってきているように思っているところです。今回の報告を見ますと、この第2四半期だけで13の小中学校、1幼稚園。合わせて9講座が実施されたということです。私、前の年、前の年を見ているのですが、一昨年度は8校で5講座の報告でした。それから昨年度は少なくとも3小中学校、1保育園の2講座だけだったのです。この第2四半期の同時期を比べてみると。そういう点では今回かなり多いというか、かなりとっていいかどうかわかりませんが、多いように思っています。これを見たときにとっても嬉しく思いました。

それから事業予定にもあるのですが、第3四半期の事業予定には既に11月で4小中学校、4講座が予定されている、11月中だけです。これも良いことだと思って見ていたのです。その実施数が今までより多くなっているということについては、何か特別な取り組みをしたとか、何かきっかけがあったということがあったのでしょうか。それとも特にはなかったのでしょうか。

(田中社会教育課長)

今年度は小学校長会、中学校長会でも毎年お願いしていることではあるのですが、改めて今年は強くお願いした結果増えたのかと思っております。これまでではどちらかというところ1回このシステムを使って、使いやすいと思った先生方が回していらっしゃるような感じだったのですけれども、今年度は新たに取り組みられた方もいらっしゃるようで、11月を含めまして16回の開催と、去年よりは増えているのかと感じております。以上です。

(築瀬教育委員)

ありがとうございました。これも前にお願ひして、小中学校長会とか、そういうときに、何事もそうなのですが、継続してお願いしていかねばいけない。1回だけではどうしても、学校現場は忙しくて、いっぱいお願いされるので、失礼な言い方ですが、忘れてしまうのです。ですから繰り返し呼び掛けるということが大事だと思うのです。忘れてはいませんかとか、そういったことが大事かと思っています。結果的に25年度は、年間通して19校の16講座だったのです。26年度のことは先ほどの点検評価報告書の37ページにそのことを述べられています。26年度は15小中学校、保育園で13講座の実施であったという報告があります、先ほどの報告書で。今後の方向性というところで、その報告書では幼稚園、保育園での実施が少ないということを課題に挙げています。そして幼稚園、保育園への実施依頼をしていくという方向性が述べられている。それはそれで、裾野を広げるという意味で私はとても良いことだと思っています。再度お願いしたいのは、特に校長先生を通しての小中学校への依頼と同時に、私はPTAへの働きかけということも、社会教育の面では大事なのではないか。いわゆる学校が主体となってこの講座をやるという考えのほかに、PTAからの申し入れというか、学校に対してこれを利用してはどうですかくらいの、そういったPTAそのものに対しての直接的な働きかけということも必要かと思っています。そういうことをやっているのであれば、一応お知らせいただきたいのです。なぜかというところ、家庭教育という面で困っている面もあると思うので、そういった面でも先生方だけ、学校だけの問題ではない。いわゆる保護者、あるいは地域も含めた課題なのだとということをもっと訴えていっていただきたいと思っています。そういうことで何かあるのでしょうか。

(田中社会教育課長)

社会教育課では、この子育て・親育ち講座もあるのですが、家庭教育研修会というものを市民大学講座と連携しながらやっております。年1回、2月くらいに毎年連合PTAと一緒に開催しております。その場面において、子育て・親育ち講座もやっているような話はちらちらとしたことはあるのですが、具体的なアプローチはしていなかったところもありますので、2月の家庭教育研修会も含めて、子育て・親育ち講座のご案内もこれからしていきたいと思っております。ただし今年度、予算が結構いっぱいなので、来年度増やせるかどうか検討しながら進めたいと思っております。

(築瀬教育委員)

はい、わかりました。去年も一昨年もこのことについて聞いて、2月の段階でまだ予算がありますという言葉がたくさん聞かれたのですが、いま嬉しいことに予算がなくなるという。逆に言えば嬉しいことを聞いたので、是非実績を上げて、予算を増やしてもらって、またさらに拡大していくというように、市連

合PTAの事務局などもありますから、そういったところを通して。現在の大きな課題だと思うのです。この子育てだけではない、親育ちということも含めてです。非常に重要な取り組みだと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

もう一つは各小中学校、保育園、幼稚園などに特徴的な取り組みであったり、あるいはこういうちょっとしたアイディアでこういうことができますというような紹介なども、呼びかけと同時にしていけば少し広がるかと思っていたところですが、できる面で工夫していただければ大変ありがたいと思っています。以上です。

(大庭教育委員長)

はい、ありがとうございます。もしできるような方法があれば、考えていただければと思います。あと何かご意見等はございませんか。はい、武輪委員。

(武輪教育委員長職務代行者)

それでは業務報告の中で3つお聞きしたいことがあります。1点目は9ページの教育指導課の17番、防災教育副読本導入事業についてです。こちらは次の予定では11月16日に防災ノートの研修会という形で予定されておりまして、この改訂版に向けた研究をさらに進めているということです。政府としても小中高生向けに防災副読本の作成を進めているという報道がされて、来年1月から3月に希望する学校へ無償配布というものを読みました。八戸市としては国で作られる防災副読本を希望して、取り寄せてみて、それもさらに参考にしてみるとか。その内容を少し読みましたら、自分の身を守るとか、命についてという面もありますけれども、いろんな工業、物流の部分など多方面から考えて、その防災副読本というものを政府では考えているようなのです。その副読本を希望しますという形で、手を挙げる予定はあるかどうかということをお聞きしたいと思います。

(沼館教育指導課指導主事)

防災担当の教育指導課沼館です。国から案内が来たときに、各学校に希望をとりました。希望をとったのですが、まず市のほうで市独自の防災ノートを配っていて、そちらのほうに今着手したばかりの学校が多くて、今はまず市の防災ノートを活用していきますという学校がほとんどでございました。ただ何校かは、やはりそちらも活用してみたいということで、希望している学校も数校あります。そちらのほうには配ってあります。あとこちらのほうも幾つか取り寄せまして、防災危機管理課とも連携を取りまして、どういった内容のものがあるかということを見まして、また来年、再来年の改訂版に向けて参考になるところがありましたら、そちらも活用していきたいと考えております。

(武輪教育委員長職務代行者)

続けて隣の10ページの社会教育課の3番です。公開講座開催促進事業。こちらで高専の空気砲を作って遊ぼうというのが8月10日に行われたとあります。ちょうどその前日の8月8日、9日は青少年のための科学の祭典が行われたと思います。その科学の祭典の次の日にこういう形ではっちで行われたということは、私たちの市教委でやっている科学の祭典と何か関連があるのか。科学の祭典にはたくさんの団体、もちろん高専の学生もお手伝いに来てくださって、一つのブースを担当してくださったりしていると思う

のです。その科学の祭典との関連があつて、そういうものが行われているのか。全く高専が独自で事業を行われていて、この参加者数、市内小学生の4年生が18名とありますけれども、これもその小学生が単独でそちらに申し込んで参加されたのかどうかということをお聞きしたいと思います。

(田中社会教育課長)

結論から申しますと、特に関連させたものではございません。公開講座は今年初年度ということで、手探り状態で進めていたのですが、子どもたちの夏休みに宿題も兼ねたものを何かやれないかということで高専に相談したところ、8月10日がいいということでした。会場の都合もあつたのですが、良いお話をいただきましたので、ここで設定いたしました。申し込みも直接社会教育課で受け付けまして、この人数が集まつたということです。以上です。

(武輪教育委員長職務代行者)

ありがとうございます。今日のお話の中で教育長がノーベル賞のお話もされていましたが、この科学の祭典は科学の祭典であつて、こういう形で次の日にまた高専で行われているこの事業で、このような形で小学生がいろんな日常の不思議などに触れられるということはとても良いと思ひました。類家の福祉公民館に行くにあたり、近くの小学生は行きやすいと思うのですが、なかなか電車を使つたり、バスを使つたりというように、行き慣れていないと、はっちでこのようにさらに別な形で行われていると、そちらに参加しやすいお子さんもいると思うのです。いろんな形で、いろんな場面で、いろんなところに触れられる場面がいっぱいあるのはとても良いことだと思ひています。また最近、この高専やられているいろんな事業の紹介に触れることが多いのですが、英語の分野であつたり、科学の学校というものが開催されるとありました。いわゆる科学的なものだけではなく、英語の分野も小中学生並びに保護者、それから教員も対象と記載されてありました。高専としても、このように色々なことをしているということは、私たち教育委員会だけではなく、いろんなところでいろんなことに触れられることが、多く、いま八戸市では行われているということで、非常に良いことだと感じております。

それではもう1点、お話をお聞きしたいと思います。12ページの(6)のウミネコの保護事業についてです。こちらは4月11日で、皆さんの中にも足を運ばれた方がいらっしゃると思うのですが、蕪島に新しく休憩所ができました。その建物ができたことによって、ウミネコに対して何か変化があつたとか、何か影響があつたか。建物ができたことによって人が増えただけではなくて、その建物自体によって何かウミネコに特別変化があつたという、監視の方からの報告等があるかということをお聞きしたいと思います。

(小保内社会教育課副参事)

社会教育課小保内です。休憩所ができたといひましても、これは下のほうで、主に監視で数をカウントしたりしているのは、上のほうと島の中になります。それについて言えばそれほど変化はなかつたということです。下の部分につきましては、実はまだデータを採り始めてまだ5、6年なので、正確な評価といえるかどうかなのですが、若干繁殖の成績は悪かつたということになります。ただこれは休憩所ができたからということだけではなくて、天候とか、餌とかいろんな要因があるので、もう少し長期的に見ていかなければいけません。あと来年、今工事を盛んにやっていますが、芝を貼ります。休憩所の上などにも全

部芝を貼って、そこでも繁殖できるようになるので、もう少し時間をかけて評価していきたいと思っています。以上です。

(築瀬教育委員)

19ページの図書館のところを出前講座というものがあります。その中で最近、地域密着型教育の事業として一番多いのが図書ボランティア、読み聞かせボランティアがあるわけです。そういった中でこういう取り組みは非常に大事だと思っているのです。把握していたらいいのですが、この城北小学校の3番のところの訪問で読み聞かせの仕方とあるのですが、この読み聞かせの仕方というものはどういう講師が、どういう内容で行ったかということは今把握しておられるのでしょうか。

(藤田図書館長)

この学校図書館出前講座は、図書館の司書が学校の要請を受けて、それぞれの学校に参りまして、講座をするというものです。

(築瀬教育委員)

すいません。例えば図書館に毎週読み聞かせボランティアの方々が来て、読み聞かせをしていますよね。そういう方が同行するのではなくて、あくまでも司書の方が行かれているのですか。

(藤田図書館長)

はい、その通りです。

(築瀬教育委員)

はい、わかりました。こういう講座というもの、これには全部教諭が入っているのですけれども、教諭を含めなくて、例えば地域密着型教育の中で、その学校の読み聞かせボランティアグループがあったとします。そうすると、その読み聞かせボランティアのグループが学校にお願いして、その読み聞かせボランティアのグループだけで読み聞かせの指導を受けるということも学校を通せば可能なのでしょうか。

(藤田図書館長)

確かにそうですね。

(築瀬教育委員)

学校を通せば先生がいなくても、例えば教頭先生に世話してもらって、読み聞かせボランティアのグループの方が司書の方からお話を聞くということも可能ですかね。

(藤田図書館長)

はい、可能です。

(築瀬教育委員)

はい、わかりました。ありがとうございます。もう一つあるのですけれども。

23 ページの博物館です。これは8月の定例会で私のあいさつの中でも少し触れたところ、2 番の特別展です。戦後 70 年特別展ということで、少しあいさつで触れたのです。重複することになると思うのですが、やはり青森県とか、八戸市でも戦災にあっているということを知らない子どもたちというものが、ほとんどではないかと思うのです。さらにこれから誰も知らない世界になっていく。そうするとこの副題にあるように、この記憶を継承するという事は非常に大事な事だと思っているのです。特別展だからこういう大掛かりな取り組みだと思うのですが、風化が心配されるので、継続的な取り組みも必要だと思っているのです。そのことは別として、ここに来場者が 3,479 人と書かれてあります。非常に難しい質問かもしれませんが、来場者の年代とか、傾向です。例えば高齢者が非常に多かったとか、案外若い人が多かったとか、何か特徴的なことなど、あるいは何かそこでの感想を話していかれた方がいたとか、何かあったら教えていただきたいのです。

(古里博物館副館長)

来館者の年齢層なのですけれども、高齢者が主な傾向でございました。当時を思い出す方もいらっしやうったようです。あと目立ったのは、親子連れも多かったような気がいたします。やはり保護者の方々も子どもに伝えたいという気持ちの表れなのではないでしょうか、そういう姿も見受けられました。

アンケート調査をやっていたのですけれども、やはり八戸に空襲があったことを知らなかったということはたくさんありました。今知れて良かったと、やはりこれを次代に伝えていきたいというご感想もありました。あとは経験者が少なくなっていますので、この体験者による記憶の継承というものは大変難しくなってくるかと思うのです。そのために博物館では、今度は残された戦争資料のほうでこの記憶を継承していきたいと思っているところでございます。

(築瀬教育委員)

ありがとうございます。私も行ったときに、意外ということは大変失礼な言い方なのですが、意外と若い人が結構いて、その親子連れの方も結構見えたのです。ですから、少しPRするとこの若い人たちにも、興味という言い方は大変あれなのですが、もっと知りたいとか、そういうことがあるのかと思って。意外と親子連れとか、そういった方が見えたので、そういったところも大事だと思っていましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。以上です。

(大庭教育委員長)

いろいろ質問とご意見に回答をいただきました。ありがとうございます。私は1点だけ。16 ページの9番のところ。教育相談・適応指導教室事業のところに関して、相談状況の一番下のポツです。相談件数は夏季休業中に学校で行われる教師と保護者の面談を経て、担任もしくは保護者が相談を依頼するケースが多かった。さらにこども支援センターの周知が進み、電話相談から新規相談につながるケースも増えた。こういう意味では例えば次第にこども支援センターについても段々理解が深まってきたというか、周知が行き届いていったと思っています。ただ先日あったPTA役員の方々との懇談の中で、もう少しPRしてほしい、せっかく良い制度で、知っている方はうまく利用できているのだけれども、まだ知らない方もいるということで、もう少しこの辺をPRしてもいいのではないかという意見もございました。確か

に一気に増えると、今度は対応のほうが大変だという面もあると思いますが、周知に関してはもう少しこういう使い方があるということで、周知されてもいいのかと思ってその話を聞いていたので、お伝えしておきます。

報 告 「平成 27 年度第 3 四半期の主な事業予定について」

(大庭教育委員長)

次に、「平成 27 年度第 3 四半期の主な事業予定について」委員の皆さんから質問がありましたら、お願いします。

(築瀬教育委員)

1 つ感想と、尋ねたいということです。6 ページのところです。教育指導課で昨年から始めた教育の広場はちのへとあるのですが、まず単純なことで、教育の広場はちのへでいいのでしょうか。それとも昨年度のように教育の広場 in はちのへなののでしょうか。単純なところでお願いします。

(木村教育指導課長)

昨年度は in を付けておりましたが、in を付けると持ち回りの感じがするということがありまして、in を取りました。正式には教育の広場はちのへでこれからも続けます。

(築瀬教育委員)

はい、わかりました。ありがとうございます。あとは昨年 2 月の定例会で私が要望等を述べたのですが、これから細かいことは詰めると思うのですが、ここに書かれてあることだけから判断しますと、講演は二日連続ではないような印象を持っています。去年私が二日間講演を続けるのはどうなのだろうかということをお話しました。これは二日間続ける予定ではないということだとらえていいのでしょうか。

(木村教育指導課長)

その通りです。今年は 26 日、土曜日のステージで 1 回組んでいる予定です。

(築瀬教育委員)

予定ですね、わかりました。2 つ目として、アイデアとしては子どもたちのものづくり体験のようなものを入れて、子どもたちにもという意図が感じられて、その点を工夫されていると思って期待していました。

あと残りです。私が要望として述べたことで、1 回目ということで残念なことに昨年の参加人数が少なかったのですよね。もう少し市民の皆さんに興味を持ってもらえるような PR とか、各学校への呼びかけというものは必要ではないかと思っています。引き続きお願いしたいと思います。

2 つ目はそれに関わってなのですが、2 月にもお話ししたのですが、先生方にとっても他校の実践内容とか、教育委員会の施策を直接聞く良い機会だと本当に思っているのです。ですから、そういう幅広

い意味での研修の場ではないかと思っていて、この事業に先生方が参加して講演を聞くとか、壁新聞を見たりすることは出張研修でいいのではないかと私は感じているのです。週休日、冬休み中ですから、冬休み中の振り替えは可能かと思うので、そういったことも今答えなくてもいいので、是非検討していただいて、先生方も是非研修として参加してほしいという希望をもっていました。その辺も検討していただければありがたいと思っていました。

あと学校図書館ブックリサイクルフェアも、また開催する予定のようなので、楽しみにしています。何かあれば。

(木村教育指導課長)

その来場者数を増やすとか、先生方の研修の場とすることですけれども、昨年度は金土で行ってました。特に金曜日は学校で教育課程の会議がほとんどのところに入ってまして、集まることができなかったんで、今年は市民の方も含めて来られやすいようにということで土日にしてあります。市民への周知、それから学校へはまだ校長会が1回くらいありますので、お願いの形では呼び掛けていきたいと思えます。以上です。

(大庭教育委員長)

私も今の教育の広場はちのへに関連しまして、やはり去年マイクを使いながら八戸市教育委員会の施策の紹介をされていましたが、あれなども築瀬委員と同じでもう少し多くの方に聞いてほしいという思いで、せっかくこのような形でアナウンスしているんで、このようなところも多くの方に聞いてもらえればということがひとつありました。

それから市の教育委員会の施策を模造紙といいますか、そのようなコーナーもあったかと思いますが、あの辺などもやはりもう少し一般の方に見てほしいという思いがありましたので、その辺の見せ方の工夫といいますか、その辺をひとつ考えていただければいいかと思えます。

あと学校図書館のブックリサイクルのところですか。これも回を重ねて定着していけば、中には楽しみにしている人も出てくるかと思えますので、この辺も継続してやっていただければありがたいと思っております。

あと委員の方からございますか。

(油川教育委員)

ありがとうございます。7ページの10番のいのちを育む教育アドバイザー事業に関してなのですが、これは中学校9校で医師による講演会の実施予定とあります。これはとても良いことだと思います。それに加えて、いのちを育む教育ということは、またいろんな場面で育まれていると思うのです。例えば先日三条小学校を卒業して、母校の皆さんに是非お話ししたいということで、皆さんももうご存知かと思えますけれども、国際緊急援助隊の医療チームとしてネパールに派遣されたヤマモトダイチさんが三条小学校で5、6年生に対してそのときの体験のお話をなさいました。それに参加させていただいたのですが、このヤマモトさんのお話の中で命が大切という言葉、それ自体もあったのですが、命を大切と言葉にしなくても、一つ一つのことが命は大切という行動などでそういうことで伝えられた。写真1枚見るにしても、命は大事なのだということが、一つ一つのことから十分伝わったのではないかと思います。

子どもたちの感想をあとから聞いたのですけれども、やはりヤマモトさんが勇気をもってやったことが命を救うことになって、そして平和につながったということに感動したという旨の子どもたちの感想がありました。ヤマモトさんは子どもたちにもわかりやすいような説明をさせていただきますので、是非そういうことも子どもたちに体験させてあげられたらと思います。

あと1点です。これは自園のことを申し上げて申し訳ないのですけれども、三条中学校の家庭科の先生から、家庭科の一環でということ子どもたちとの触れ合いをさせてほしいので、是非遊びにいらしてくださいということで、3年生の子どもたちに招待をしていただきました。それで中学生の生徒さんは子どもたちのためにゲームを作って、ブースを設けて、大歓迎をしてくれたのです。子どもたちはすぐに順応する子どももいたのですけれども、慣れずにどうしたらいいのかという表情の子どもたちがいました。そういう子どもたちに、園児に対して中学生はどういう言葉がけをしたらこの子どもは楽しい気持ちになってくれるのだろうとグループで話し合っ、て、すごく努力をしている姿、これもまた命を育む教育というものに結び付くのではないかと思います。そして昨日生徒さんたちから感想が寄せられてきて、その幾つかです。園児の皆さんがまだ帰りたくないと言ってくれて、すごく嬉しかったとか、さあお遊び始まりますよという合図とともに、真っ先に走っていく子どもの姿がとてもかわいいと思ったとか、幼児の気持ちになって考えることの重要性がわかったとか、子どもの笑顔に釣られてついつい笑顔になってしまったことが新鮮で良かったとか、時間の経過とともに幼児たちと仲良くなることができたので、もっと時間があつたらいいと名残惜しい気持ちになったとか、一人一人の子にさまざまな性格や、考え方があって、それぞれに合わせるのが大変でも楽しい、大事なことだと思ったというようにして、感性の豊かさに心動かされたのです。こういったことも命を育むということの1つになるのかと思ひまして、三条中学校で行っている家庭科の授業を一例として皆様にご紹介申し上げます。以上です。

(大庭教育委員長)

はい、ありがとうございました。今のことに少し関連するということで、園児と中学生の交流、そこからいろんなものが生まれて、命のことが考えられていくという話がございました。私も前にもお話したかもしれませんが、例えば幼稚園、保育園の子どもたちと、中学校の生徒がどこかで接触をもっていく、つながりをもっていく。それから小学校の生徒であれば、これは小中の連携というものはかなり意識されていますので、むしろ小学校と1つ飛んで高校との接続。接続まではいなくても接触を図っていく。そして例えば中学生であれば、高校は直接受験などが絡んできますけれども、高校よりも大学、大人と接触する。そうすると高校生3年間の過ごし方が見えてくる。そのようなことをずっと考えておりまして、直接、直近のものだけではなくて、今のように例えば幼稚園、保育園と中学校との接触。中学校と高校、これも可能だと思うのです。この接触をもっていく。そうするとその間の過ごし方のようなものが欲を言えば見えてくる。おそらくそのようなことで、そういう接触の仕方も何かの形で考えられればいいのかと個人的に思っております。もしそのような機会を作れる機会があれば、企画していただければいいのかと考えております。

あとご意見ございませんか。

(武輪教育委員長職務代行者)

7ページの青少年グループの14番、さわやか八戸あいさつ運動についてお聞きしたいと思います。こちら

らのBeFMとか、いろんなところでこのさわやか八戸あいさつ運動というものは活発に行われていることが、八戸市民の皆さんにもよく知られていることですが、この街ぐるみ編という形で11月3日に行われるものは今回初めてのことであるのか、私の勉強不足で前にもこういうことがあったのかということです。

これは中学生と地域のPTA等であいさつ運動を実施するとあります。朝早い時間帯もありますけれども、先生はこちらに参加されているのかどうかということです。

地域密着型のことも踏まえて、こういうことが行われているのかと思うので、今も話しましたが、その点をお聞きしたいと思います。

(木村教育指導課長)

この街ぐるみ編では陸奥湊駅前の朝市や湊中学校、それから八戸駅につきましては三条中学校、八食につきましては下長中学校にお願いをして、また生徒指導の担当の先生、生徒会指導の担当の先生にも付いていただきながら、PTAも含めて、今回初めてではなくて、何年も続いているものです。

(沼館教育指導課指導主事)

担当の沼館です。さわやか八戸あいさつ運動は16年目を今年で迎えております。この3校が地域であいさつ運動に取り組むということは、少し確認しなければわからないところですが、今年度はそれぞれの学校に3校合わせて、95名の子どもたち、それから先生、あと地域の方にも協力をいただいて行っております。あいさつ運動のほかに、防犯に関するロゴが入ったティッシュを配りながら、地域の皆さんにあいさつの大切さを訴えていく活動でございます。以上です。

(武輪教育委員長職務代行者)

こちらになぜ先生方が入っているのかとお伺いしたのは、11月3日、いわゆる祭日なので、地域密着ということからすると、私は逆に先生は参加しなくてもいいという表現はあれですけども、お休みの日なので、そちらに住んでいる地域の方とここに住んでいる中学生がそこでやってもいいのかと。そうすると先生はもちろん仕事ということではないのですが、お休みの日にそこへ、住んでいる所からそちらの学校の地域に出向かなくても、地域の方と中学生ができるといいのではないかと思います。どのような意見が出るかわかりませんが、今度、来年同じような形でやる場合に、先生はいりませんので、地域の方とその生徒会を中心に中学生。生徒会という言い方をすると先生が出ていく必要があるのかもしれないのですが、中学生でやってみてはどうかという提案はどうかと思います。

(大庭教育委員長)

今すぐに返事はいただけないと思いますので、その辺で考えられることがあれば考えてくださいということですね。

(武輪教育委員長職務代行者)

はい。もう1点お聞きしたいと思います。11ページの是川縄文館のところで、埋蔵文化財調査事業(2)です。市内の遺跡のポツの1つ目、長芋、ごぼう作付けに伴う調査、田面木遺跡というものです。この長芋とか牛蒡を作っているところにも遺跡があるということですか。

(清川是川縄文館副館長)

田面木遺跡の発掘について今年が3年目で、来年度もやるのですけれども、高専高校の下のほうで八戸駅の左側の方でやっています。そこに長芋とかごぼうを作付けするというので、発掘調査を行っているものです。作付けのためにこれから作っていくものです。

(油川教育委員)

6ページのマイブック推進事業の項目の3つ目のところなのですけれども、未使用のクーポンがどの程度あるかについては現在担当課にて確認作業中である、12月をめどに把握したい、とあるのですけれども、こちらは把握した後の対策というものはどのようなお考え、計画があるのかをお聞きしたいのです。

(木村教育指導課長)

昨年度も言いましたけれども、500円券4枚なのですが、1枚残している子とか、2枚残している子など。また1枚も使わない子が何十名かありました。そこは学校も大体わかるのですけれども、校長会等で親と行けないとか、そのような様子を探って、何か理由があるのであれば、そこを解決しながらいくようにしています。したがって去年もそのようなことが出ていましたので、できるだけ学校へはとにかく期限内に使うことを呼びかけて、昨年度は使用率が約90パーセントであったものが、今年度は少し伸びて95パーセントになっています。使用率は上がっていますが、継続してその使用状況を確認めながら、さらに使用率を高めていきたいと思っています。以上です。

(油川教育委員)

はい、ありがとうございます。マイブックのクーポン券を手にして、すぐに本屋に行くという子どもさんは普段から本に触れ合う機会が多いかと思います。逆に昨年度の10パーセント、それから今年度の5パーセントのまだ使用できていないというお子さんが利用できるように、100パーセントということは本当に難しい、大変だと思うのですけれども、子どもの基本権利、生きる権利と、守る権利と、それから参加する権利、育つ権利という基本的な人権が保障されるような、そこまでも追及してと言いますか、普段本と触れ合うことができないお子さんもこのことをきっかけに本の素晴らしさであったり、色々な考え方の人がいるのだということを学ぶことができたかと思えます。10パーセントから5パーセントに未使用が減ったということで、ご努力されているのだととてもありがたく思いました。どうぞよろしくお願いいたします。

(大庭教育委員長)

ブックスタート、あるいはこのマイブックに関しては市民の方からも期待するところが大きいようです。残り5パーセント、使わなかった5パーセントの子が本に関心を示してくれると、やはりそこが大事な事業の要素かと。関心を持っていなかった子が関心を示してくれるようになると、残り5パーセントです。その辺の解消に向けてまた改善等を進めていただければと思います。

報 告 「平成 28 年八戸市成人式について」

(田中社会教育課長 資料に基づき説明)

閉 会

(大庭教育委員長)

これをもちまして平成 27 年 10 月の教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。

(午後 2 時 55 分閉会)